

(25) 以下の通り訂正いたします。

#### P491 発表者の変更

誤

289) 看護学生の考える高齢者の持てる力 ―臨地実習前のレポートを分析して―

○外村昌子<sup>1</sup>，津崎勝代<sup>1</sup>，上西洋子<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>森ノ宮医療大学保健医療学部看護学科

#### 【目的】

わが国の高齢化は急速に進み，老年看護では高齢者の全体像を理解し看護実践に向けた知識の充実が必要である。しかし，看護学生達は核家族化を背景に日常生活の上で高齢者と触れ合う事が少なく，年齢差の大きな高齢者との世代間ギャップを感じ，ネガティブなイメージを持つなどが報告されている。加齢現象や疾患が多い高齢患者の看護過程を展開するには，疾患などの理解と共に，その人の持てる力を捉え個別性の高い看護援助が必要とされる。そのため，早期から持てる力の意識づけを目的に，講義開始時にレポート課題を課している。そこで，本研究は臨地実習前の学生の「持てる力」についての理解を明らかにすることを目的とする。

#### 【方法】

対象者は平成26～27年度にA大学看護学科2年時に老年看護援助論1を受講した157名，レポートテーマは「持てる力について」とした。分析方法は内容分析でレポートの高齢者に関する持てる力の記述を取り出し，意味が理解できる文節にコード化し，繰り返し読むことで類似性と相違性を検討しカテゴリー化した。カテゴリー化には信頼性と妥当性の確保のため老年看護学領域の研究者3名で検討した。倫理的配慮は所属大学の倫理審査委員会の承認を受けた後に実施し，研究目的や個人情報保護の保護，学業への影響のないことを説明し同意を得た。

#### 【結果】

高齢者の持てる力は【身体面の強み】【精神面の強み】【他者との関係の強み】の3カテゴリー，各カテゴリーに以下のサブカテゴリーが抽出された。【身体面の強み】は「セルフケアができる」「障害を補って生活できる」「コミュニケーションができる」「自己管理ができる」，【精神面の強み】は「ストレスコーピングができる」「自己決定ができる」「意欲がある」，【他者との関係の強み】では「他者のサポートを受けられる」「他者に対してサポートができる」「人生経験がある」を抽出した。

#### 【考察】

学生の多くが「セルフケアができる」や「自己管理ができる」などのサブカテゴリーが示すように，健康な高齢者を対象とし，その一方，「障害を補って生活できる」や「他者によるサポートを受けられる」という加齢や疾患による障害を持つ状況となっても，前向きに生活する高齢者像を見出ししていた。「人生経験がある」や「他者に対してサポートができる」では，高齢者が持つ豊富な人生経験を基に，他者との関係を積み上げており，社会的な役割を担おうとする姿を捉えていたと考えられる。臨地実習でこれらの視点を十分に生かすためには，認知症や麻痺，失語症など重篤な障害がある高齢者の援助を考える際に現場での指導が重要となる。今後は学生がより積極的に「持てる力」を考える視点を獲得できる教育内容を検討する必要があると考えられる。

正

289) 看護学生の考える高齢者の持てる力 ―臨地実習前のレポートを分析して―

外村昌子<sup>1</sup>，○津崎勝代<sup>1</sup>，上西洋子<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>森ノ宮医療大学保健医療学部看護学科

#### 【目的】

わが国の高齢化は急速に進み，老年看護では高齢者の全体像を理解し看護実践に向けた知識の充実が必要である。しかし，看護学生達は核家族化を背景に日常生活の上で高齢者と触れ合う事が少なく，年齢差の大きな高齢者との世代間ギャップを感じ，ネガティブなイメージを持つなどが報告されている。加齢現象や疾患が多い高齢患者の看護過程を展開するには，疾患などの理解と共に，その人の持てる力を捉え個別性の高い看護援助が必要とされる。そのため，早期から持てる力の意識づけを目的に，講義開始時にレポート課題を課している。そこで，本研究は臨地実習前の学生の「持てる力」についての理解を明らかにすることを目的とする。

#### 【方法】

対象者は平成26～27年度にA大学看護学科2年時に老年看護援助論1を受講した157名，レポートテーマは「持てる力について」とした。分析方法は内容分析でレポートの高齢者に関する持てる力の記述を取り出し，意味が理解できる文節にコード化し，繰り返し読むことで類似性と相違性を検討しカテゴリー化した。カテゴリー化には信頼性と妥当性の確保のため老年看護学領域の研究者3名で検討した。倫理的配慮は所属大学の倫理審査委員会の承認を受けた後に実施し，研究目的や個人情報保護の保護，学業への影響のないことを説明し同意を得た。

#### 【結果】

高齢者の持てる力は【身体面の強み】【精神面の強み】【他者との関係の強み】の3カテゴリー，各カテゴリーに以下のサブカテゴリーが抽出された。【身体面の強み】は「セルフケアができる」「障害を補って生活できる」「コミュニケーションができる」「自己管理ができる」，【精神面の強み】は「ストレスコーピングができる」「自己決定ができる」「意欲がある」，【他者との関係の強み】では「他者のサポートを受けられる」「他者に対してサポートができる」「人生経験がある」を抽出した。

#### 【考察】

学生の多くが「セルフケアができる」や「自己管理ができる」などのサブカテゴリーが示すように，健康な高齢者を対象とし，その一方，「障害を補って生活できる」や「他者によるサポートを受けられる」という加齢や疾患による障害を持つ状況となっても，前向きに生活する高齢者像を見出ししていた。「人生経験がある」や「他者に対してサポートができる」では，高齢者が持つ豊富な人生経験を基に，他者との関係を積み上げており，社会的な役割を担おうとする姿を捉えていたと考えられる。臨地実習でこれらの視点を十分に生かすためには，認知症や麻痺，失語症など重篤な障害がある高齢者の援助を考える際に現場での指導が重要となる。今後は学生がより積極的に「持てる力」を考える視点を獲得できる教育内容を検討する必要があると考えられる。